



【主な記事】

- ・残念ながら一蓮托生
- ・結論：籠城戦は大変だ
- ・見えないからこそ見えるもの
- ・北陸特化型！お取り寄せ漫画

残念ながら一蓮托生



「細菌とウイルスは別物である」ということを最近初めて知った方は多いのではないのでしょうか？たしかに、生物学的な定義が違ふとはいえず、彼ら（と寄生虫）はかなり近いイメージがあります。そんな気持ちで書棚を見ていると、なかなか気持ち悪い表紙の書籍が一冊。その名も『寄生生物の果てしなき進化』。他の生物から拝借して生きる寄生生物（パラサイト）たちの、数奇で壮大な進化をたどる物語です。

人間に寄生するパラサイトも、もともとは別の生物からうつされたものです。よりどころとする生物が変わるのですから、それは新型変異種の誕生とは比較にならないほどの変異が必要です。また、人間は熱帯から寒帯まで広く生息する生き物です。外部環境への適応も必要でしょう。その一方で、人間には他生物と比べてかなり多いパラサイト、あるいは

感染症が存在しています。人類は恒温動物で、一定の栄養を摂取しており、同種で密集して生活しがちです。パラサイトからしてみると、とてもありがたい存在であるのは間違いないでしょう。麻疹やトコジラミなどは人間に特化しており、人間という寄生先の居心地の良さがわかります。

他の生物において、ウイルス感染は進化を促す作用があるともいわれまます。一方、人間ではどうでしょうか。感染症がはびこるたびに、医療技術や衛生環境を進展させ、これらに対抗してきました。が、そのたびにパラサイトたちも進化を繰り返し、この変化に対応してきています。現代でも感染症や寄生虫が根絶できていないのは、ご承知の通りです。人間とパラサイトとの生存競争。これからもずっと続く戦い的一幕が現在です。過去から続く歴史を生物学の視点から学んでみるのはいかがでしょうか？

紹介させていただいて

よろしいでしょうか？

『「させていただく」の使い方 日本語と敬語のゆくえ』は現在、自粛に伴う文章などにも多用されている。「させていただく」という表現について解説された書籍。言語学者である著者の研究にもある通り、十代〜八十代のどの年代でも文法通りでない使用に違和感を覚えないとの結果が出ています。本来この表現には、話し手に恩恵がある「恩恵性」、

許可を得る意味合いの「使役性」、聞き手の関わりが必要かどうかの「必須性」が全て必要である。一例としてあげられている「解散させていただきまます」という表現はこの三要素が全て含まれていないが、記憶に新しい国民的音楽グループの解散会見にも使用されていた。多用される理由として、とにかく「便利」な言葉になってい

ると説明されている。一般的な丁寧表現「〜いたします」では敬意がすり減っていて、代替表現として「させていただく」が利用されている。ただこれも敬意がすり減ってきている兆しがあり、「させていただいてもよろしいでしょうか？」という疑問形になる表現も増えてきているとのこと。

オンラインミーティングの上座下座にもマナーが設定される昨今、細かすぎるのもどうかとも思います。日頃常用する言葉遣いを見直すことも大切かもしれません。

悲観している場合じゃない

絵柄からして読み手を癒してくれる益田ミリ作品の中でも、落ち込んだときや行き詰まったときについ本棚から引っぱり出して読み返す本が『世界は終わらない』です。男性の書店員が主人公で、日々の仕事の様子や悩みがリアルに描かれており、何度読んでも親近感がわきます。

登場人物が人生の意味について考え、思い悩み、それを吹っ切って生きていくきっかけとして、本棚から懐かしい本を引っ張り出して読むシーンがあります。その辺りは全くそのままなので自分を見ているようです。ですが、本が与えてくれるのは「きっかけ」であって「答え」

ではありません。幸せの在り方は人それぞれですから、日々、自分の人生と向き合って頑張って生きていくしかありません。未知の感染症が人々を脅かし、新しい生活様式を求められようと、「世界は終わらない」のですから。



結論・籠城戦は大変だ

先日発表の第一六六回直木賞受賞作は『塞王の楯』と『黒牢城』でした。どちらも安土桃山時代が舞台の時代小説で、しかも籠城戦を扱うという珍しい回でしたが、二作は随分対照的です。

『塞王の楯』の主人公は石垣職人の集団・穴太衆の頭目。戦火で家族を失った彼は皆を守るための「破られない石垣」を作ることを目指します。ライバルとして鉄砲職人の頭目もでてきて、クライマックスは「最高の石垣」対「最強の大筒」の戦いに！互いの強く熱い思いがぶつかり

最後まで目が離せません。

対して『黒牢城』は静かに対面しながらの、バチバチ心理戦の様相。織田信長に叛旗を翻した荒木村重が籠城中の城内でおこる事件に困り（人心掌握の問題で）、土牢に監禁

していた黒田官兵衛に助言を仰ぐ。村重と官兵衛の攻防もさることながら、村重と部下たちや領民たちとの関係の変化もなかなかの見ものです。戦国時代の戦いはトップに立つ武将しか名前が出てこないけれど雑兵たち、職人たち、商人たち、僧侶たち、いろいろな

立場のひとがたくさん関わる総力戦なんだなあと思えて思いました。

二作とも違う味わいで楽しく読むことができるので是非読み比べていただきたいと思います。

二作とも違う味わいで楽しく読むことができるので是非読み比べていただきたいと思います。



今村 翔吾 米澤 穂信

読後爽快！青春ミステリ

高校生のピップが住む小さな町では、五年前に少女失踪事件が発生していた。犯人とされたのはピップと親しかった少年。どうしても彼が犯人とは思えないピップは、高校の「自由研究」として事件の真相を調べ始める……。

『自由研究に向かない殺人』で描かれるピップの推理方法は、「高校生の立場」で「高校の自由研究」の範囲を出ていない。警察

関係者へのツテや、ピップ自身が優れたハッキング能力をもっている、という都合のよいものは一切出てこない。彼女が行うのは地道な関係者へのインタビューやSNSを駆使した情報収集が主

で、本書内では「活動記録」として実際に得たままに読者に提示され、ピップと同じ目線で推理を

楽しい。その都度更新される「容疑者リスト」にはピップと親しい人々が浮かび、時には信じられない情報もあるが、あくまでも公平な立場を崩さず、フラットに物事を見ようとするピップの姿は本書の一番の魅力。情報を正しく扱いフェアネスを示し、ただり着く事件の真相解明の読後の爽快感をぜひ味わっていただきたい。

本書はヤングアダルトとして刊行されており、とても読みやすく構成されているので初めての翻訳ミステリとしておすすめの一冊。

仕事とは何か？

悩み苦しむすべての人へ

一昨年に人文書としては異例の話題書として各種媒体で取り上げられていた、文化人類学者デヴィッド・グレーバー氏の遺作『ブルシット・ジョブ』。どうでもいい仕事の理論（岩波書店）。この本を翻訳されたのは大阪府立大学教授の酒井隆史氏で、今回ご紹介する『ブルシット・ジョブの謎』は、翻訳者自身による『ブルシット・ジョブ』の入門書という位置付けで、昨年末に講談社現代新書より出版されました。

さて、肝心の『ブルシット・ジョブ』とは何かと言うと、言わば仕事のための仕事、無意味で有害ですらある仕事のこととされています。本書ではなぜこのような仕事が発生しているかとい

う背景や原因を、資本主義や官僚制、ベーシックインカムなどの用語を交えて解説していきます。ページが進むにつれて、話の枠組みが大きくなり、最終的には「わたしたちには「想像力」がある」という章に進むのですが、この着地点には胸が打たれるところがありました。

冒頭にも書きましたが、『ブルシット・ジョブ』はデヴィッド・グレーバー氏の遺作です。今後活躍が期待される知識人の一人としても評価されましたが、道半ばで二〇二〇年に逝去されました。本書をきっかけとして、デヴィッド・グレーバー氏の過去の著作にも是非触れてみてください。



David Graeber

爆笑必至

SNSで話題。福井県立図書館「覚え違いタイトル集」が一冊の本になりました。

「下町のロボット」「トコトコ公太郎」等おもしろいものから本書のタイトルにもなった『100万回死んだねこ』『年だから、解雇せよ』なんて世知辛いもの、「八月の蟬」「家康家を建てる」など一瞬「ん？」となるものまで様々。図書

背景や原因を、資本主義や官僚制、ベーシックインカムなどの用語を交えて解説していきます。ページが進むにつれて、話の枠組みが大きくなり、最終的には「わたしたちには「想像力」がある」という章に進むのですが、この着地点には胸が打たれるところがありました。

読書が趣味で同じ富山県内に住みながらなかなか会うことができない友人とは、もっぱらメールで感想を伝え合う昨今。「久々に声をあげて笑った」と大好評で、互いの覚え違い経験を暴露するというおまけつき。まさに『笑う門には福来る』です。

さて、あなたはいくつ答えられましたか？ 答えは本書でお確かめください。爆笑必至です。

【書誌情報】『塞王の楯』(今村翔吾/集英社、¥2,000)、『黒牢城』(米澤穂信/KADOKAWA、¥1,600)、『自由研究には向かない殺人』(ホリー・ジャクソン 著、服部京子 訳/創元推理文庫、¥1,400)、『ブルシット・ジョブの謎』(酒井隆史/講談社現代新書、¥920)、『100万回死んだねこ』(福井県立図書館/講談社、¥1,200)

※価格は本体価格です。

見えないうちから見え始めるもの

『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』は、全盲の視覚障害者である白鳥さんと一緒に美術館を巡り、美術鑑賞をするノンフィクションである。

見えない人がどうやって美術鑑賞をするのかというと、まず見える人が作品を見て、そのままの印象を伝えて、白鳥さんがそれに質問して……という形式。そうやって対話を続けるうちに、最初は気づけなかった作品の良さや、そ

れと向き合う今の自分のことや、一人で鑑賞していたら気づけなかった発見がある。見えないうちに「教えてあげる」だけではない、お互いに得るものがあり、楽しい時間の共有になっている。

有名な作品を何気なく見て、「見た」ということに満足して、次の作品へ。そういう見方になっていくことがある。リモートで美術館巡りができるようになり、美術展に行く回数もぐっと減ってし

まった。それでも作品を生で見たい、という気持ちと、何かあったら、という気持ちがせめぎ合う。昨今、なかなか美術館に足が向かなくなっているが、本書に出会い色々な美術作品に触れることができ

て、新しい鑑賞の形も提示してもらえた。次に美術鑑賞するときはただの観光気分ではなく、じっくり作品と向き合えそうだ。

兼

今こそチャンス！

めつきりお金を使う機会が減ってしまった。まず、出かけないので服を買わない。化粧品も買わなくなった。旅行もない。飲み会もない。ライブも払い戻しばかり……。そう思っていたのにこの二年、気づけば貯金もさほど増えていない。

に二十万もかかったから？せめて大きい画面で配信ライブを見たい、とテレビを買い替えたから？いや、仕事帰りに用もないのにコンビニに寄ってしまうから？意外と心当たりばかりがあるものです。何かで心の収支をトントンにしようとしていたのでしょうか。

を貯めるチャンスだったのですね」と後悔しないためにも、お金の勉強を始めなくては。書店員の特権として、こういう時は売場からヒントをいただくことにしているの、まずは一番売れているマネー本『本当の自由を手に入れるお金の大学』を。さらに、『一般論はもういいので、私の老後のお金「答え」をください！』も読んでおきたい。願わくは、本には惜しみなくお金をかけたいものです。

やさしい時間を、

感じたい時に。

自分の夢を売ることが出来て、かつ他人の夢を買うことが出来ればどんな夢を買うだろうか。ベタだが、幼い頃によく見た「空を飛ぶ夢」は絶対に買ってしまうに違いない。

リラックマの原作者コンドウアキの新シリーズはMOEえほん屋さん大賞四位にも入った優しい気持ちになれる素敵な話だ。

ゆめぎんこうは、ペンギンのペンペんとバクのもぐもぐが営むお客様から夢を買って夢のアメに変え、それを

会えないけど大切なあなたのことをいつも思っている

室井滋さんと長谷川義史さん、名コンビによる絵本が『会いたくて会いたくて』です。

おばあちゃんに会いたい、でも会うことができないケイちゃんの日記が始まります。ホームに入所しているおばあちゃん。お母さんは行ってはダメと言うし、ホームの人には「今お見まいできないの」と言われます。会いたい気持ちと心配な気持ちと募らせるケイちゃんに胸が詰まります。

そこでおばあちゃんの意外な一手、三階の窓から糸電話！それでソーシャルディスタンスを保っておしゃべりします。「大切なのは人を使う心」、会えなくても

売るお店。ペンペンは今日もおじいさんの夢を買に行きます。

夢も楽しいものばかりではなく、怖がりのペンペんはこの仕事が好きではない。でも依頼人のおじいさんの人生を振り返るお手伝いが出来た時、やっていて良かったと思えるところ、日々働いている人の心にグッとくるものがある。この仕事をやっていて良かったと思える事を積み重ねて今がある。

今の世の中だと、マイナス面ばかりが目がいって気持ちも落ち込みがち。もしかしら自分でも知らず知らずのうちに人に元気を与えているのかもしれない。前向きな気持ちにさせてくれるだけで、明日も頑張ろうと思うのだ。

人を使う時間をもつこと、じっくりと世界を見つめることの大切さをおばあちゃんに話し、ケイちゃんの心を包みます。

私たちはスピーディに物事が進むことを当たり前と思っています。最近忘れがちなことを気付かされ、優しい気持ちをもらったように思います。糸電話で会話というのもアナログでほんわかを感じます。

疑問すら感じなかった「普通の日常」は偶然にすぎず、当然のものではないと思う今日この頃。自分にとって大切な人、思いやる気持ちを持ち、「普通」の時間を大切にしたいと思わせる一冊です。

【書誌情報】『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』(川内育緒/集英社インターナショナル、¥2,100)、『本当の自由を手に入れるお金の大学』(両@リベ大学長/朝日新聞出版、¥1,400)、『一般論はもういいので、私の老後のお金「答え」をください！』(井戸美枝/日経BP、¥1,500)、『ゆめぎんこう』(コンドウアキ/白泉社、¥1,300)、『会いたくて会いたくて』(室井滋 著、長谷川義史 絵/小学館、¥1,200) ※価格は本体価格です。

